

挨拶

研究設備・装置のより効果的な活用と 学際的な研究協力の推進を目指して

この度、本学で稼働中の「研究設備・装置」の一覧を作り、学内外の研究者にご覧頂くこととしました。この情報公開によって、設備と装置がより広く活用されるだけでなく、共同研究や研究協力が一段と進むことを期待するものです。

我が国は、国土が狭く、資源も乏しい国ですが、質の高い教育を通じて、勤勉さや創意工夫を重んじる気風を生み出し、産官学の諸組織が研究・開発に邁進することにより、独自の文化と強い産業競争力を築いてきました。しかし、昨今、新興諸国が目覚ましい発展を遂げるとともに、資源の枯渇や環境保全などの制約も加わり、我が国の科学技術のレベルを一段と高めるための新たな取組みが必要になっています。

政府は、科学技術の振興のために、科学技術基本法を基に、大学や研究機関への支援を強めています。また、大学の技術の産業界への移転促進も含め、産官学連携を強め、イノベーションを生み出すための取組みを後押ししています。その一環として、文部科学省は、ナノテクノロジーの研究を促すために、2002年、ナノ技術分野で優れた設備や研究経験を持つ大学や国立研究所のネットワーク組織を作り、全国の研究者を支援する制度を始めました。この組織は、第1期(2002-07年)、第2期(07-12年)の活動を経て、現在、「ナノテクノロジープラットフォーム」プログラムとして第3期(2012-17)の活動を進めています。本学も、第2期からこの組織の一員として、大学・産業界・公立研究機関の研究者に設備の利用を可能とするなどの支援を進めてきました。

本学は、小さいながらも、優れた研究者と設備を備え、最先端の研究を行うユニークな大学です。これらの設備に留まらず、高度な研究活動を行っている教員の知識や技能を活かすことにより、学内外の研究者間での研究協力や支援を一層強めたいと考えています。こうした取組みにより、産官学の連携がより活発化し、優れた成果が生まれることを祈念しています。

この冊子に紹介された設備・装置に関心のある場合は、遠慮なく相談をいただき、その活用などを通じ、優れた成果を達成されることを期待しています。

2013年6月1日

豊田工業大学
学長 榊 裕之

共同研究活動の活性化に向けて

ご存知のように、豊田工業大学は質の高い教育に留まらず、世界的にもトップレベルの研究の推進を目指して様々な試みに努力してまいりました。その結果としまして、本学には数多くの研究装置が各研究室に設置されています。これらの装置群を個々の研究室だけで使用しているだけでは余りにも勿体ない。出来る限り数多くの研究者に使っていただき、学内での共同研究は言うに及ばず、産業界から大学、研究機関まで学外の研究者の方々との間の共同研究推進につなげたい。そのような思いから、この度、本学が保有している主な装置、設備を一冊の本にまとめました。出来るかぎり数多くの方に知っていただくとともに、実際に使っていただきたいと強く念願しております。

本書に掲載いたしました装置は、学内外における供用の可能な装置群と、それ以外の装置群との二つに分類されております。前者は、現在実施されています文部科学省「ナノテクノロジープラットフォーム」プログラムにおきます利用可能装置にもなっております。これらの装置につきましては、その機能や仕様、使用例などを記載し、出来るだけ利用者の参考資料として役立てていただきたいと考えております。後者の装置群につきましても、順次、内容を紹介していく予定にしております。

この冊子は、皆様方の利用に少しでも役立ちますように、定期的に、より充実した内容に改めていくことにしております。また本学のホームページにも掲載し、外部の方々にも幅広く知っていただきたいと考えております。

これらの装置情報が学内・学外共同研究の推進に少しでも役立つことが出来ましたら、委員会としましては、この上ない喜びであります。

なお、この冊子を読まれた後のご感想やご意見などを是非とも私共にお寄せ下さい。今後の改良に是非とも役立てたいと考えております。

2013年6月1日

豊田工業大学
研究推進委員会 委員長
研究設備共同活用センター長
教授 田代 孝二